



画像1：都営横川五丁目アパート © 大山顕

[SEMINAR]

# 暮らしの創造

団地文化から考える公・共・私

Lifestyle Creation

Japan's Danchi Housing Culture: The Public, the Community, and the Private

2022年2月13日[日]、26日[土]、27日[日] 13:00-18:30

生活工房セミナールーム [三軒茶屋・キャロットタワー 5F]

[GUEST]

照井啓太 [団地愛好家]      大山 顕 [写真家／ライター]

千葉敬介 [東京R不動産]      饗庭 伸 [都市計画学者]

原 武史 [政治学者]      山本理顕 [建築家]

## 基本情報

**タイトル** 暮らしの創造 団地文化から考える公・共・私

**日程** 2022年2月13日[日]、26日[土]、27日[日]

**時間** 13:00-15:00 《講演》講師①  
15:15-17:15 《講演》講師②  
17:30-18:30 《対談》講師①×講師②

**講師** 2/13[日] 照井啓太[団地愛好家]、大山顕[写真家/ライター]  
2/26[土] 千葉敬介[東京R不動産]、饗庭伸[都市計画学者]  
2/27[日] 原武史[政治学者]、山本理顕[建築家]

**参加費** 各日 4,000 円 [オンライン決済]

**定員** 各日 50 名 [申込先着]

**申込** 2022年1月10日[月] 10:00 より  
生活工房ホームページ該当申込フォームで受付

※後日 YouTube への一部公開を前提に撮影が入ります。

※新型コロナウイルス感染状況により内容は変更になる場合があります。

**会場** 生活工房セミナールーム  
東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー 5 階  
TEL 03-5432-1543

**交通案内** 東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅直結  
東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば

**主催** 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

**後援** 世田谷区、世田谷区教育委員会



画像 2：団地のコミュニティ 赤羽台団地 [UR 都市機構]



画像 3：西新井第三団地 [UR 都市機構]

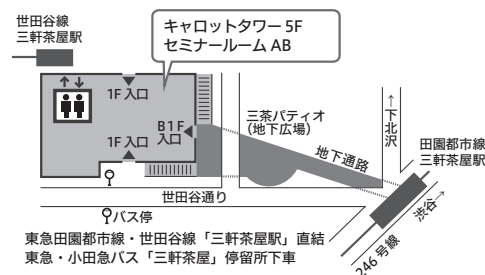
## 画像のご使用について

- ▶本リリース掲載の画像の貸出をご希望の方は、①媒体名 ②御社名 ③ご担当者名 ④ご連絡先 ⑤ご希望の画像番号を明記の上、下記広報担当まで E メールでお申し込みください。
- ▶使用後のデータは破棄してください。
- ▶お手数ですが、基本情報確認のため掲載前に一度原稿をお送りください。

## 本事業についてのお問い合わせ

公益財団法人せたがや文化財団 生活工房  
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー  
TEL : 03-5432-1543 FAX : 03-5432-1559  
MAIL : info@setagaya-ldc.net WEB : www.setagaya-ldc.net  
広報担当：石山那緒子 事業担当：中村幸、大竹嘉彦、佐藤史治

### 交通アクセス





## ▶過去 | 2/13 sun

戦後から現代まで日本の暮らしの変遷が団地から見えてくる

## ▶現在 | 2/26 sat

団地・街・人の関係を読み解き、新しい暮らしを仕掛ける

## ▶未来 | 2/27 sun

新発想に触れて、創造していきたい暮らし方について考える

### 概要

現在の暮らしの源流に思いを巡らせたことはありますか？  
今では当たり前となっている近代的な暮らしのモデルを広めたのは、戦後の深刻な住宅難を解消すべく日本住宅公団によって創られた団地だったと言われています。

「食寝分離」の西洋型の間取りに、ステンレスキッチン・水洗トイレ・ガス風呂・シリンダー錠の鉄扉などを備えた最新の暮らしが人気を集めた団地。全国に次々と建設された団地は、プライバシーとセキュリティを重視し、1つの住宅に1つの家族が住むという、現在につながる暮らしのスタンダードを創造しました。

団地には、独自の文化やコミュニティが育ち、多くの映画・小説・漫画の舞台となってきました。また近年は、子育て・介護などへの配慮、リノベーション、芸術家とのコラボレーションなど、実験的で新しいタイプの団地も注目されています。

一方で団地は今、建物の老朽化や住民の高齢化、共同体の消失など、さまざまな問題に直面しています。このセミナーでは、日本人のライフスタイルの変化と深く関わってきた団地の歴史と文化を多様な視点から紐解きながら、私たちがこれから先の未来に創造していきたい暮らしについて考えます。

### ▶概要 [Short.ver]

日本人のライフスタイルの変化と深く関わってきた団地の歴史と文化を多様な視点から紐解くセミナー。私たちがこれから先の未来に創造していきたい暮らしについて6人のゲストと考えます。



画像 4：西武庫団地 [UR 都市機構]



画像 5：団地のリビング[UR 都市機構]



『団地を楽しむ教科書 暮らしと。』[青幻社]



画像 6：地域社会圏イメージスケッチ

# 2月13日[日] 13:00-18:30 [途中休憩有]

## ▶13:00-15:00 講演1「団地概論」

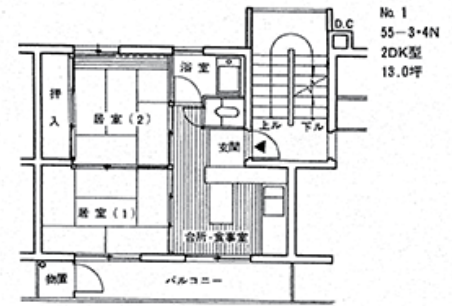
トップバッターは、日本各地の名作団地を紹介するファンサイト「公団ウォーカー」を運営し、昭和の懐かしい団地と人々の生活の様子を伝える書籍を出版されている団地愛好家の照井啓太さん。戦後の団地創世記から現代まで各時代における団地とその暮らしの特徴や歴史的変遷について豊富な資料を見ながら解説していただきます。



画像9

### 照井 啓太 Terui Keita

1986年生まれ。団地愛好家。団地ファンサイト『公団ウォーカー』を運営。団地の魅力を紹介するイベント「ダンパク（大団地博覧会）」の開催をはじめ、テレビ・雑誌・新聞などで幅広く活躍している。著書に『日本懐かし団地大全』（辰巳出版）、共著に『僕たちの大好きな団地 あそこ、団地はピカピカに新しかった！』、『団地ノ記憶』（共に洋泉社）など。



画像7：公団黎明期の標準的な2DK

『日本住宅公団10年史』[UR都市機構]



画像8：豊かな緑に包まれる常盤平団地のスターハウス

## ▶15:15-17:15 講演2「メディアとしての団地」

団地は、多くの映画・小説・漫画・アニメなどの舞台となりました。団地マニアのユニット「団地団」の一員で、団地・工場・ジャンクションといった巨大建築の写真集を多く出版されている写真家・ライターの大山顕さんをお招きし、さまざまなサブカルチャー作品をとおして団地と都市の関係について考察します。



画像12

© 大山顕

### 大山 顕 Oyama Ken

1972年生まれ。写真家・ライター。団地マニアのユニット「団地団」の一員として多くのイベントを開催。テレビ・ラジオ出演多数。写真展『大団地展』（2003～2008）、主な著書に『団地の見究』（東京書籍）、『新写真論 スマホと顔』（ゲンロン叢書）、共著に『団地団 ペランダから見渡す映画論』（キネマ旬報社）、『工場萌え』（東京書籍）など。



画像10：大谷田一丁目団地2号棟

© 大山顕



画像11：豊島五丁目団地10号棟

© 大山顕

## ▶17:30-18:30 《対談》 照井啓太 [団地愛好家] × 大山顕 [写真家／ライター]



**2月26日[土] 13:00－18:30** [途中休憩有]

**▶13:00－15:00 講演1「団地と街と暮らしの関係」**

全国の団地の紹介や住み方を提案するサイト「団地 R 不動産」の運営や、街や建物を活性化する「ニューニュータウン」プロジェクトなどを手掛ける東京 R 不動産の千葉敬介さんをお招きし、新時代の団地暮らしの魅力や、団地のある街に住む人や来る人が繋がりとしきさを感じる場へシフトチェンジする方法を伺います。



画像 15

**千葉 敬介 Chiba Keisuke**

1972 年生まれ。不動産を新たな視点で紹介する「東京 R 不動産」で、団地とその周辺の地域の活性化を行う「団地 R 不動産」や街に賑わいを創る「ニューニュータウン」プロジェクトに関わる。主な書籍に『団地に住もう！東京 R 不動産』（日経 BP 社）、『団地を楽しむ教科書 暮らしと。』、『団地のはなし 彼女と団地の 8 つの物語』（共に青幻舎）など。



画像 13：「京都堀川団地リノベーションプロジェクト」ワークショップツアー



画像 14：「ニューニュータウン西尾久プロジェクト」の拠点

**▶15:15－17:15 講演2「団地がつくりだした地形」**

戦後わずか 40 年間に建設された団地は今、当初の役割を終えつつあります。団地によって都市の中に作られた一風変わった「地形」からどのような意味が読み取れるのか。人口減少により縮小する都市を考察した著書『都市をたたむ』で注目される都市計画学者の饗庭伸さんをお招きし、多摩ニュータウン等での実践例を交えて、団地の次なる可能性を考えます。



画像 17

**饗庭 伸 Aiba Shin**

1971 年生まれ。東京都立大学都市環境学部都市政策科学科教授。多摩ニュータウン南側活性化、鶴川団地再生、世田谷区明大前駅前地区、中央区晴海地区、国立市などの都市計画やまちづくりに携わる。主な著書に『平成都市計画史 転換期の 30 年間で残したもの・受け継ぐもの』、『都市をたたむ 人口減少時代をデザインする都市計画』（共に花伝社）など。



饗庭伸著「都市をたたむ」[花伝社]



画像 16：ニュータウン整備でつくり出された地形 [多摩ニュータウン]

**▶17:30－18:30 《対談》 千葉敬介 [東京 R 不動産] × 饗庭 伸 [都市計画学者]**

**2月27日[日] 13:00－18:30** [途中休憩有]

**▶13:00－15:00 講演1「団地の共同体と思想」**

1960～70年代に革新的な政治意識を支える基盤となった団地とその共同体。その後、コミュニティが衰退し個人主義が勢いを増していった団地は今、住民の高齢化や孤独死の問題を抱えています。政治学者の原武史さんをお招きし、団地空間で生まれた思想や共同体についてお話いただきます。



画像 18：ワルシャワ、モトコフの団地（2016.10）  
撮影：原武史



画像 19：滝山団地 6 丁目 1 街区（2016.11）  
撮影：原武史

**原 武史 Hara Takeshi**

1962 年生まれ。政治学者。放送大学教授。『「民都」大阪対「帝都」東京』（講談社）でサントリー学芸賞、『滝山コミュニティー九七四』（講談社）で講談社ノンフィクション賞、『昭和天皇』（岩波新書）で司馬遼太郎賞受賞。主な著書に『団地の空間政治学』（NHK 出版）、『増補新版レッドアローとスターハウス もうひとつの戦後思想史』（新潮選書）など。



画像 20

**▶15:15－17:15 講演2「団地と地域社会圏」**

最後にお話しいただくのは、国内外で多くの団地や公共施設の設計を手掛け、地域コミュニティを再構築する「地域社会圏」という新しい暮らし方を提唱する建築家の山本理顕さん。单身化や高齢化によって限界を迎えている日本の住宅システムに代わる新たな「公／私」のライフモデルを伺い、これから先の未来の暮らしについて考えます。



画像 21：パンギョ・ハウジング © 佐藤浩一



画像 22：パンギョ・ハウジング・コモンデッキ  
©Sun Namgoong

**山本 理顕 Yamamoto Riken**

1945 年生まれ。建築家。名古屋造形大学学長。主な作品に東雲キャナルコート、埼玉県立大学、公立はこだて未来大学、横須賀美術館、チューリッヒ国際空港など国内外で多くの公共建築や集合住宅を手掛ける。日本建築学会賞、毎日芸術賞、日本藝術院賞など受賞多数。主な著作に『権力の空間／空間の権力』（講談社）、『脱住宅「小さな経済圏」を設計する』（平凡社）、共著に『地域社会圏主義』（LIXIL 出版）など。



画像 23

© 森日出夫

**▶17:30－18:30 《対談》 原 武史 [政治学者] × 山本理顕 [建築家]**